

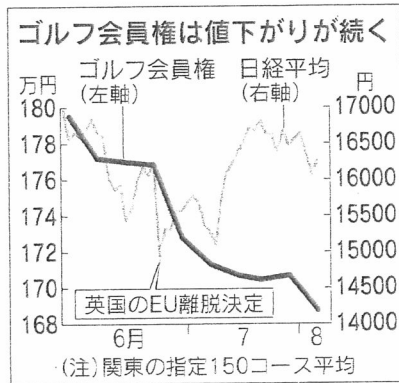
# ゴルフ会員権相場 低迷

## 景気不透明で法人様子見

ゴルフ会員権の相場が低迷している。英国の欧州連合（EU）離脱決定後に値下がり鮮明となり、7月に上昇した日経平均株価と比べ、落ち込みが目立つ。景気の不透明感を反映し、法人を中心に様子見の動きが強まった。リゾート会員権も取引が一時的に鈍ったが、現在は富裕層の需要が戻りつつある。

### リゾート会員権は回復基調

関東ゴルフ会員権取引業協同組合（東京・千代田）がまとめた関東圏の平均価格（主要150コース平均）は、4日時点で168万7千円。離脱が決定する前の6月23日と比べ5%、年初比で8%下落した。集計開始後の最安値圏で推移する。



東急リゾートは新規物件の募集が好調という（東急ハーヴェストクラブ 軽井沢&VIALAのイメージ）



「高価格帯コースを中心に法人が購入を先延ばししている」（佐川八重子社長）。ゴルフ会員権相場は株価との長期的な連動性が指摘されてきたが、最近では連動性が薄れつつあるとみられる。ゴルフ会員権はアベノミクス相場で2012年末から13年上半期にかけて値上がりしたが、足元ではゴルフ人口の減少や税制変更を背景に値下がりが続く。英国のEU離脱に伴う景気の不透明感が下落に拍車をかけている。

特に高価格帯のコースの値下がり幅が大きい。戸塚カントリー倶楽部（横浜市）は1200万円～1300万円と、6月上旬に比べ1割、宝塚ゴルフ倶楽部（兵庫県宝塚市）は5%前後下落した。リゾート会員権の取引も6～7月に一時低迷した。仲介大手のe会員権（横浜市）によると、6月の取引件数は5月に比べ22%減少した。ただ、8月に入り購入は増えている。「購入をためらっていた層が買い始めているようだ」（e会員権）。株価上昇の恩恵を受けた一部の富裕層が購入しているとみられる。東急リゾート（東京・港）が新規募集を始めた「東急ハーヴェストクラブ軽井沢&VIALA」の会員権は、価格が1000万円を超えるものもあるが「契約数が想定約2倍で推移している」（同社）という。